




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1169 号	氏名	加來 庸一郎
審査担当者	主査	矢野 博久	
	副主査	高森 信三	
	副主査	大島 孝一	
主論文題目： Overexpression of CD163, CD204 and CD206 on Alveolar Macrophages in the Lungs of Patients with Severe Chronic Obstructive Pulmonary Disease (重症慢性閉塞性肺疾患肺組織における肺胞マクロファージには、CD163、CD204 および CD206 が強く発現していた)			

審査結果の要旨（意見）

慢性閉塞性肺疾患（COPD）は肺の重要な炎症性疾患であるが、その成因について未解決な点も多い。本研究では、38 例の COPD 患者（stage I-IV）と 25 例の健常者（喫煙者と非喫煙者）の肺組織を用いて、肺胞内マクロファージ（M ϕ ）と COPD の発症や重症度との関連性について検討している。その結果、重症 COPD 患者の肺胞内には、M ϕ が増加しており、その大部分が、M2M ϕ であることを明らかにした。更に、M2M ϕ 数が対標準 1 秒量と有意な負の関係にあることも明らかにした。本研究は、COPD の成因や病期進行に M2M ϕ が密接に関連していることを明らかにしており、今後 COPD の治療法開発にも有益な情報を提供すると思われ、学位論文として極めて価値の高いものであると判断する。

論文要旨

我々は、重症慢性閉塞性肺疾患（COPD）肺組織において、肺胞マクロファージが健常人肺組織と比較して有意に増加していることをすでに報告した。しかし、肺胞マクロファージが COPD 肺組織において増加している機序や作用は未だに不明である。マクロファージのフェノタイプである M1 および M2 マクロファージは、炎症または抗炎症作用に関与していることが示唆されている。そこで、COPD 患者肺組織を用いて M2 マーカーとしての CD163、CD204 および CD206 の免疫組織染色にて発現を検討した。重症 COPD 患者肺組織では、肺胞マクロファージのうち CD163 陽性、CD204 陽性および CD206 陽性細胞が、健常人、軽症、中等症 COPD 患者肺組織と比較して、有意に増加していた。さらに COPD 患者肺組織における CD163 陽性、CD204 陽性および CD206 陽性細胞数は、気流閉塞の一つの指標である対標準 1 秒量と有意な負の相関を示した。これらの結果より CD163、CD204 および CD206 の増加は、COPD の発症および重症化に関与していることが考えられた。